

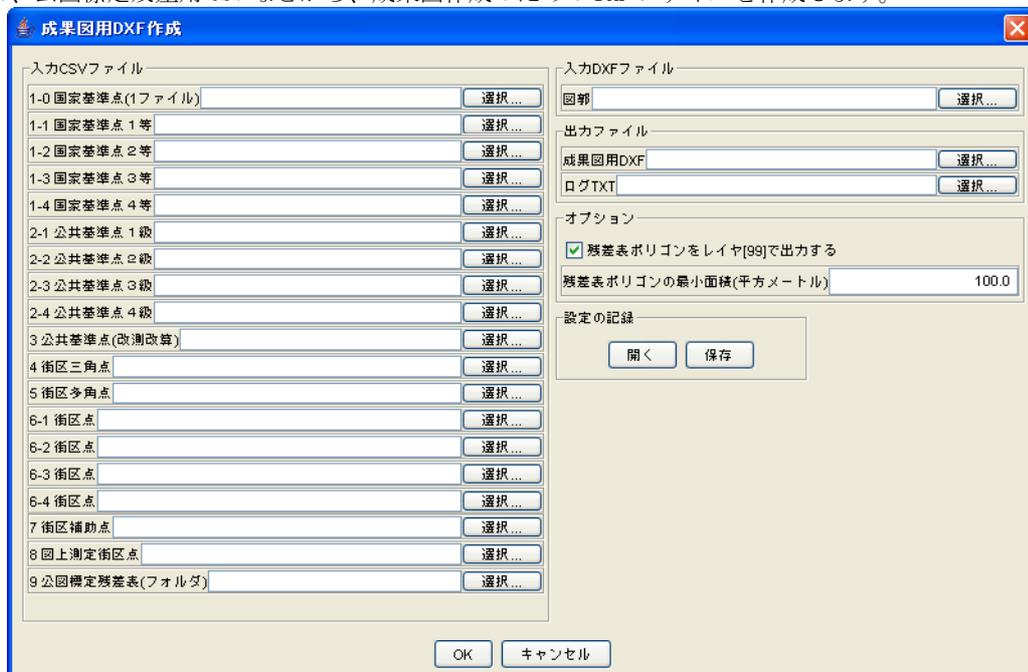
1. 成果図用 DXF 作成

メニュー[ツール]-[成果図用 DXF 作成]を変更しました。

- 街区点の杭種別のテキスト出力処理を変更しました
- 街区点のファイルを1ファイルから4ファイルまで指定できるようにしました
- ダイアログの設定を自治体別などで記録・再利用できるようにしました。
- CSV ファイル選択で、それぞれのタイプ別にデフォルトフォルダを記録するようにしました

以下、機能説明書からの抜粋です。

街区点 CSV、公図標定残差用 CSV などから、成果図作成のための DXF ファイルを作成します。



【入力 CSV ファイル】

(1) 国家基準点成果簿

ふたつのタイプの CSV ファイルに対応しています。

【四つの等級が1ファイルにまとめてある場合】

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1行目から次の列をリードします。

列	型	内容
5	文字列	等級 (I、II、III、IV) と基準点名
6	実数	X 座標 (測量座標)
7	実数	Y 座標 (測量座標)

【四つの等級がそれぞれ別ファイルになっている場合】

CSV ファイルの1行目はヘッダ行で、2行目から次の列をリードします。

列	型	内容
10	文字列	等級 (I、II、III、IV) と基準点名
11	実数	X 座標 (測量座標)
12	実数	Y 座標 (測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
1, 2, 3, 4	ポリライン POLYLINE	基準点原点を重心とした三角形△ 底辺 3.5m 高さ 3.0mの二等辺三角形 等級 I、II、III、IVに対してレイヤは” 1 ”, ” 2 ”, ” 3 ”, ” 4 ”となる
1, 2, 3, 4	テキスト TEXT	等級に応じて” I ”、” II ”、” III ”、” IV ”の一文字 幅 3m 高さ 3m 基準点原点から数学座標の X 方向に 4m、Y 方向に 0.5m 位置合わせは中央中心 等級 I、II、III、IVに対してレイヤは” 1 ”, ” 2 ”, ” 3 ”, ” 4 ”となる
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 6.5m、Y 方向に 0.5m 位置合わせは左中央

(2) 公共基準点成果簿

1級、2級、3級、4級それぞれの CSV ファイルが指定できます。

CSV ファイルは 1 行目がヘッダで、2 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
10	文字列	基準点名
11	実数	X 座標(測量座標)
12	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
5, 6, 7, 8	円 CIRCLE	基準点原点を中心とする円○ 直径 3m 等級 1, 2, 3, 4 対してレイヤは” 5 ”, ” 6 ”, ” 7 ”, ” 8 ”となる
1, 2, 3, 4	テキスト TEXT	等級に応じて” 1 ”、” 2 ”、” 3 ”、” 4 ”の一文字 幅 3m 高さ 3m 基準点原点から数学座標の X 方向に 3m、Y 方向に 0m 位置合わせは中央中心 等級 1, 2, 3, 4 対してレイヤは” 5 ”, ” 6 ”, ” 7 ”, ” 8 ”となる
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 6.5m、Y 方向に 0.0m 位置合わせは左中央

(3) 公共基準点(改測改算)成果簿

CSV ファイルは 1 行目がヘッダで、2 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
10	文字列	基準点名
11	実数	X 座標(測量座標)
12	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
9	円 CIRCLE	基準点原点を中心とする円○ 直径 3m
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 3.5m、Y 方向に 0.0m 位置合わせは左中央

(4) 街区三角点成果簿

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
10	文字列	基準点名
11	実数	X 座標(測量座標)
12	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
10	ポリライン POLYLINE	基準点原点を重心とした逆三角形▽ 上辺 3.0m 高さ 2.5mの二等辺三角形 等級 I、II、III、IVに対してレイヤは” 1” ,” 2” ,” 3” ,” 4” となる
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 6.5m、Y 方向に-0.5m 位置合わせは左中央

(5) 街区多角点成果簿

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
10	文字列	基準点名
11	実数	X 座標(測量座標)
12	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
11	塗りつぶし SOLID	基準点原点を重心とした逆三角形▼ 上辺 3.0m 高さ 2.5mの二等辺三角形
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に-0.5m 位置合わせは左中央

(6) 街区点成果簿

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
11	文字列	基準点名
12	実数	X 座標(測量座標)
13	実数	Y 座標(測量座標)
18	整数	街区点設置者種別
24	整数	標識区分
39	文字列	土地境界図ファイル名

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
14	円 CIRCLE	基準点原点を中心とする円○ 直径 2.0m
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に 4.5m 位置合わせは左中央
16	テキスト TEXT	杭種別 幅 2.5m、高さ 2.5m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に 1.5m 位置合わせは左中央 街区点設置者種別が 1 から 11 の場合、以下のテキストを出力する。 1: 「杭(国)」 2: 「杭(都)」 3: 「杭(道)」 4: 「杭(府)」 5: 「杭(県)」 6: 「杭(市)」 7: 「杭(区)」 8: 「杭(町)」 9: 「杭(村)」 10: 「杭(組)」 11: 「杭(民)」

		街区点設置者種別が 12, 13, 14 の場合、標識区分からテキストを判断する。 3: 「杭」 5: 「物」 0, 1, 4: テキスト出力なし
17	テキスト TEXT	土地境界図番号(「ID」からの後側の英数部分を出力。「ID-」でない場合、「ID」の後に「-」を挿入した文字列) 幅 3m、高さ 3m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に-4.5m 位置合わせは左中央

(7) 街区補助点成果簿

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
11	文字列	基準点名
12	実数	X 座標(測量座標)
13	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
12	ブロック参照 INSERT	基準点原点を中心とする円● 直径 2.0m
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に 0.0m 位置合わせは左中央

(8) 図上測定街区点成果簿

CSV ファイルはヘッダ行なしで、1 行目から次の列をリードします。

列	型	内容
11	文字列	基準点名
12	実数	X 座標(測量座標)
13	実数	Y 座標(測量座標)

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
14	円 CIRCLE	基準点原点を中心とする円○ 直径 2.0m
16	テキスト TEXT	文字列は「無」 幅 2.5m、高さ 2.5m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に 1.5m 位置合わせは左中央
15	テキスト TEXT	基準点名 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に 4.5m 位置合わせは左中央

(9) 公図標定残差表

ダイアログでは残差表 CSV のフォルダを指定します。フォルダ内の全ての CSV ファイルを残差表 CSV としてリードします。

次の列をリードします。

列	型	内容
2	文字列	街区点番号
3	実数	街区点 X 座標(測量座標)
4	実数	街区点 Y 座標(測量座標)
12	実数	残差 dL 59 行目は残差の平均二乗誤差
14	実数	縮尺係数

DXF ファイルへの出力。

レイヤ	エンティティ	内容
-----	--------	----

18	テキスト TEXT	各街区点の残差を「dL=*. **」と、小数点以下2桁で出力 幅 2m、高さ 2m 基準点原点から数学座標の X 方向に 2.0m、Y 方向に-1.5m 位置合わせは左中央
19	テキスト TEXT	残差の平均二乗誤差を「(S=*. **)」と、小数点以下2桁で出力 幅 4.0m、高さ 4.0m 街区点の凸包ポリゴンの中心座標 位置合わせは中央中心
19	テキスト TEXT	縮尺係数を「(k=*. **)」と、小数点以下2桁で出力 幅 4.0m、高さ 4.0m 街区点の凸包ポリゴンの中心座標から X 方向に 0.0m、Y 方向に-6.0m 位置合わせは中央中心
17	テキスト TEXT	街区点番号の先頭の3文字(CSVの街区点番号で最も多い3文字) 幅 4.0m、高さ 4.0m 街区点の凸包ポリゴンの中心座標から X 方向に 0.0m、Y 方向に 5.0m 位置合わせは中央中心
99	ポリライン POLYLINE	街区点の凸包ポリゴンを出力 確認用で、ダイアログで出力するしないが指定できる

【入力 DXF ファイル】

地籍図 1/5000 図郭割の DXF ファイルをリードします。

DXF には矩形のポリゴン(閉じたポリライン)とその中に図郭名称がテキストで入っていることが必要です。ポリゴンとテキストは一対一に対応していなければなりません。

上記の DXF 出力の内容を、図郭毎に DXF に出力します。ファイル名は「図郭名称」+「. dxf」とない、ダイアログで指定された全体の DXF と同じフォルダに保存します。基本的に基準点が矩形に入る場合、その基準点と関連するテキストを保存します。但し、公図標定残差表の凸包ポリゴンについては、凸包ポリゴンと矩形が重なる部分のポリゴンについて、中心座標を求め、そこにテキストを配置します。

【出力 DXF ファイル】

上記 CSV に対する DXF エンティティの仕様に従って、全てのエンティティを出力します。DXF のバージョンは R12 です。ファイル名はダイアログで指定します。

また、図郭別の DXF も出力します。図郭別の DXF にエンティティがない場合もファイルは作成します。

ダイアログで指定する「残差表ポリゴンの最小面積」は図郭別の DXF についての指定です。凸包ポリゴンと図郭の矩形が重なる部分の面積が指定された値よりも小さい場合、関係するテキストを出力しません。

【ログファイル】

読み込んだファイル名全てと、出力したファイル名全てをフルパスで記録します。また、公図標定残差表での3文字の街区点番号について、使用した3文字と、参照した3文字を記録します。

【設定の記録】

ダイアログで表示しているファイル名などは、OK ボタンを押された時に記録し、次回起動時に表示しています。自治体別に設定を記録しておきたい場合、「保存」ボタンで、CSV 形式で保存できます。この CSV を「開く」ボタンで読み込み、ダイアログの設定を入れ替えることができます。